

# 石井としひろの「館山市政かわら版」

敏 宏

館山市議会議員

## 党派を超えた地方政治を！



### 1、地方政治に国政の党派性なし

#### ① 予算案にも条例案にも党派性はない

館山市議会議員をおかげさまで10年間続けさせてもらっていますが、国政と違って、地方政治には政党による政策の違いはあまりありません。

私は2011年5月から議員を務めています。当時は民主党の菅直人政権、次に野田政権、2012年12月に自民党政権に戻り安倍政権、そして現在は菅義偉政権です。しかし、国政がどの与党であっても誰の政権であっても、それが理由で、市議会での予算案や条例案の賛否が変わることはありません。他の議員でも、国政の政権によって賛否を変えている人はいません。あくまでも国政で決まった法律や予算に基づくことが前提であり、その枠内で館山市はどうあるべきかを全ての議員が考えています。つまり、国政の争いと地方政治の争いは関係するはずがないのです。

具体的に言えば「菅政権にNO」であっても、「憲法9条を守れ」であっても、国政では重要な案件ですが、館山市の予算案と条例案には何の関係もないのです。

#### ② 党派があることは良いこと。しかし、党派争いによって政策を歪めてはならない

ただ、私は党派を否定しているわけではなく、むしろ肯定しています。なかなか1人では意見は通りづらいので、組織を作って議論して多数の意見とすれば採用されやすいのです。ですから、組織を作って政策を通そうという試みはとても良いことだと思います。

しかし、組織を作れば、組織同士が縄張り争いになることがあります。特に、国政は議院内閣制であり、多数派が首相を取ることで、足の引っ張り合いが起きることはある程度やむをえません。

一方、地方政治の場合は、二元代表制（≒大統領制）であり、議員同士が足の引っ張り合いをしても、議員から市長を出すことはできないので、不毛な争いをする意味がありません。この意味でも国政と地方政治は違い、政争は基本的に無意味なのです。

また、首長（市町村長や知事）も、住民の共感を得ながら合理的に政策を進めていくだけであり、党派性なんかで政策を捻じ曲げていたら、財政的に厳しい小規模な自治体はすぐに潰れてしまいます。だから、首長選挙は党派性を弱めるために「無所属」で出馬する候補者がほとんどであり、政党が重視される国政選挙とは違うのです。

#### ③ 食のまちづくり拠点施設計画に関して議会としての要望書を提出

館山市稲に地元の農産物を販売する道の駅を作る計画ですが、市民からは肯定的な意見も、否定的な意見も様々あります。議会でも計画に対する温度差はあれど、現時点では全員賛成で進んでいます。

そこで、議会として、この施設整備計画はどうあるべきかを議論して要望書を市長に提出しました。「議会として現時点で出す必要があるのか」「要望書のこの部分は賛成だが、疑問に感じる部分もある」など色々な意見がありましたが、最終的には賛成多数をもって議会として意見を取りまとめたわけです。

要望書の内容は生産者との連携強化などです。民間事業としての採算はもちろん大事ですが、公としてやる意義を強調した要望になっています。

要望書の取りまとめは、私も建設経済委員長として関わったので、副議長（議長代理）が市長に要望書を提出する際に同行しました。この要望書の議論においても、党派性はなかったと思います。



【房日新聞1月20日写真。左から市長・副議長・私】

#### ④ 「JR内房線における「ワンマン運転」について、住民や利用者への説明を行い、安全性が十分に確認されるまで導入しないことを求める意見書」

昨年12月の議会で上記の意見書が議員全員の賛成で可決したので、国と県に送付しました。ワンマン運転は、これまで車掌と運転士の2人で行っていた業務を、運転士1人が行うハードなものです。特に障害者の電車利用に関して安全性に不安があり、また南房総はシカやイノシシなどの有害鳥獣が電車に衝突することも頻繁なので、ワンマン運転は適さないでしょう。

このことから意見書が全会一致で可決したわけですが、この件においても、党派性はないと思います。

## 2、県知事選も国政の党派性はいらない

### ① 国政政党の推薦を求めない熊谷俊人さん

県知事選への挑戦を表明している熊谷俊人さん（千葉県市長3期、43歳）ですが、地方政治を国政の代理戦争にしたいくないことから、国政政党の推薦を求めないことにしています。

立憲民主党千葉県連や千葉維新の会などが応援していますが、あくまでも地方組織として支援しており、国政とは一線を画しています。現に、立憲と維新は国政においては、かなり立ち位置が違いますが、やはり地方政治の政策は国政とは全く別物なのです。

### ② 市町村議員の中から党派を超えて支援の動き

私も国政政党の党籍を持たない「無所属」ですが、市町村の無所属議員を中心として、党派を超えて熊谷さんを支援する動きがあります。

当然ながら、県知事は県会議員とは議会において密接なやり取りがあるわけです。また、市町村長は自治体の代表ですから、知事としっかりと連携しているものです。（もっとも、これまでの知事は県議会でも与党会派とばかりつながっていたので、他の県議とも対等に接して欲しいものです。また、知事と市長村長との連携も不十分だったので改善が必要です）

しかし、今まで市町村議員と知事とのつながりというのは全くありませんでした。そこで、熊谷さんが、知事と市町村議員の対話の機会を継続的に作りたいという意向を持っていることから、その趣旨に賛同する市町村議員が超党派で集結しました。

この超党派の市町村議員の集まりは「千の葉の会」と言い、2月20日に千葉市内で結成式を行いました。



【結成式の写真。中央が熊谷俊人さん。右は参加議員名を読み上げる私】

### ③ あらゆる質問に対しても考え方を示せる力量

昨年11月末ですが、熊谷さんが館山市に来た時の集会で質疑応答の時間があつたので、私はいきなり残土問題と環境規制のあり方について聞いてみました。（コロナ禍なので、集会については不特定多数への周知はできませんでした）

そうしたところ、「千葉県は自然豊かで工業もあるので、本来であれば、他の都道府県よりも先進的な環境規制を行っていくべきだが、それができていない」と即答。

このように、あらゆる問題に対して、すぐに本質論を

言える力量は非凡なものがあります。

### ④ オンライン対話集会は、南房総と県北の距離を縮める



大勢の集会を開くのは現状では望ましくないのですが、熊谷さんは、たくさんのオンライン対話会を開いてきました。この対話会は、原則として10名以上であれば誰でも開催できたものです。

私は数多く出席していますが、とても便利です。対話会を主催する人は県北の方が多かったわけですが、館山市に住んでいる私でも簡単に参加できるのです。コロナ以前は、わざわざ千葉以北まで出かけて1日がかかりだったのが、家で1時間で完結してしまうわけです。

このオンライン会議を使えば、市町村議員と熊谷さんの対話会は簡単に開けます。また、一般の県民も同様です。これまで南房総と県北は、距離だけでなく情報の格差もありましたが、オンライン会議の普及により、もっと密接になっていきます。

熊谷さんは千葉市長として、コロナ以前から対話集會を300回以上も開催しており、対話と情報公開を大事にしています。オンライン時代に向いており、安房地域のためになる政治家だと思います。

### ⑤ 地方政治は国政の党派とは別

東京都世田谷区の保坂区長は、もともとは社会党系の国会議員でしたが、区長選では「××NO」という国政批判を禁止し、「世田谷YES」という地道に地方政治を進めようとするキャッチコピーを使って圧勝を続けています。このように党派性や国政批判とは一線を画し、前向きに地方政治と県知事選に向き合いたいものです。

石井としひろ 略歴  
昭和47年2月26日生まれ。  
館山二中、安房高、立教大学法学部卒業。平成23年4月に館山市議会議員に初当選。



<発行者> 石井敏宏  
〒294-0038 館山市上真倉320-2  
TEL&FAX: 0470-23-7738  
携帯: 090-1557-5515  
メール ishiitoshihiro1@gmail.com  
ブログ <http://ameblo.jp/ishiitoshihiro/>